

阪神北部広域行政研究会では、今後の広域行政のあり方を検討するための参考にと、平成13年度と14年度の2回にわたり住民意識調査を実施しました。
3市1町在住の16才以上の男女(平成13年度:6,000人、平成14年度)広域的連携に対する意識、あるいは市町合併に関する関心や、期待と不安などについてお尋ねしました。

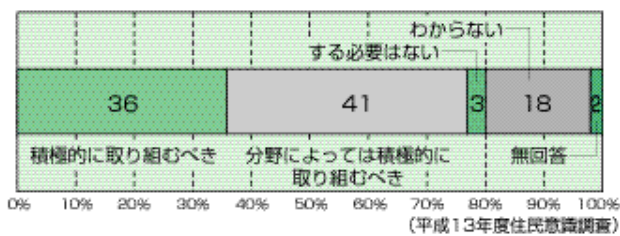
住民意識調査 結果まとまる

広域的連携に対する住民の意識

平成13年度に実施した3市1町住民意識調査では、広域的連携など阪神北部広域行政研究会の取組に対して、77%の人が肯定的に評価

しています(図表3)。特に福祉、病院、環境、交通などの分野は力を入れるべきとの回答が多くを占めました。

図表3 広域行政研究会の取組への賛否



ロックフェスティバル(平成13年8月)

阪神北部圏域の将来像

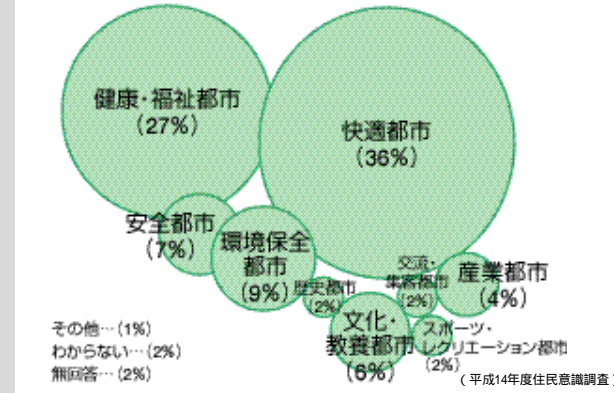
阪神北部3市1町の総合計画に掲げられた将来像には、「豊かな暮らし」や「自然との共生」などの共通点が見られます。また今年度を実施した住民意識調査では、この圏域が将来めざすべきまちの特徴として、「快適都市」や「健康・福祉都市」が上位に挙がりました(図表4)。これらの点を踏まえ、阪神北部圏域の将来像として「快適」や「健康・福祉」を特徴とするまち、というイメージを描きました。

阪神北部圏域の行政課題

阪神北部圏域の現状や今後のトレンドを踏まえ、昨年10月の研究会において、この圏域の今後の行政課題について話し合いました。そこで、課題解決の方向性として以下の点が挙げられました。

- ・魅力ある地域特性の維持・強化
- ・広域的視点のまちづくり
- ・住民ニーズの高度化・多様化への対応
- ・人口減少や少子高齢化への対策
- ・産業政策の転換や失業対策
- ・行財政改革の推進
- ・人材育成の促進
- ・住民との協働や民間活力の活用

図表4 将来目指すべきまちの特徴



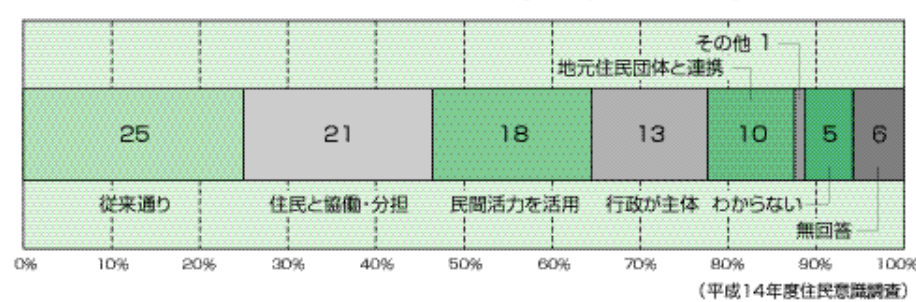
阪神北部圏域のまちづくりの方向性

今年度を実施した住民意識調査では、将来像の実現に向けて、行政ばかりでなく、住民との協働や民間活力の活用も進めるべきであるとの声をいただきました(図表5)。

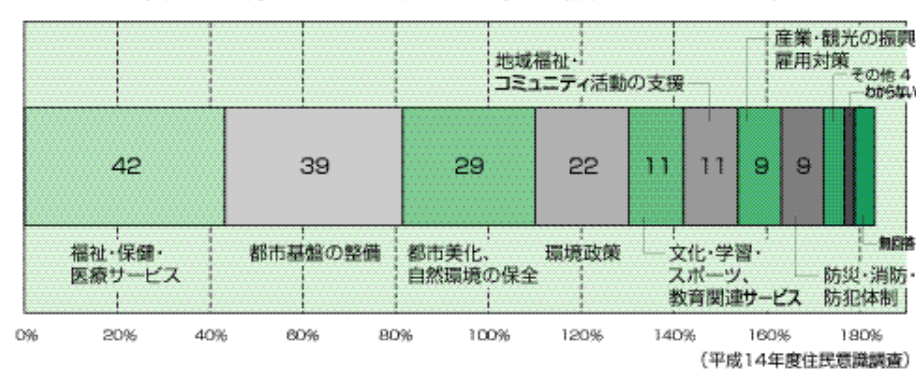
また、行政が重点を置くべき施策として、福祉・保健・医療、都市基盤整備などが上位に挙がりました(図表6)。そこで、まちづくりの方向性として以下の3点が重要であると考えられます。

広域行政によるサービスの多様化・高度化・効率化
住民との協働・民間活力によるニーズに適合したサービスの提供
重点的な施策の推進(福祉・保健・医療、都市基盤整備など)

図表5 まちづくりにおいて行政が担うべき役割



図表6 行政が重点を置くべき施策(複数回答2つまで)

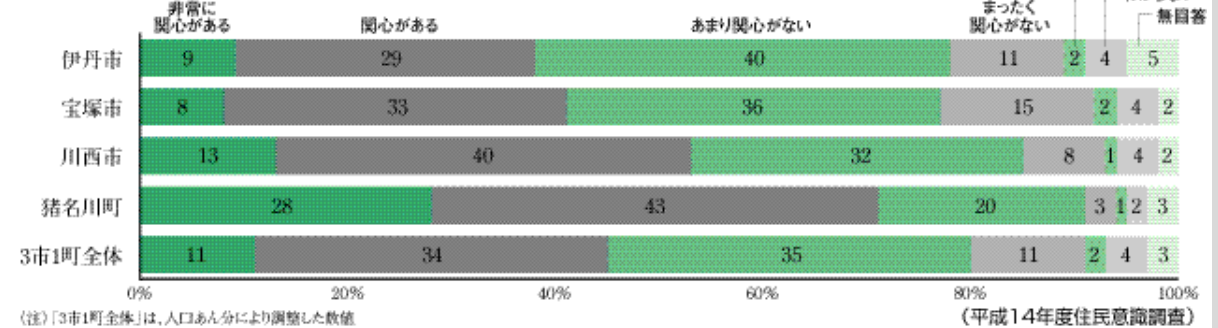


児童虐待防止講演会(平成14年11月)

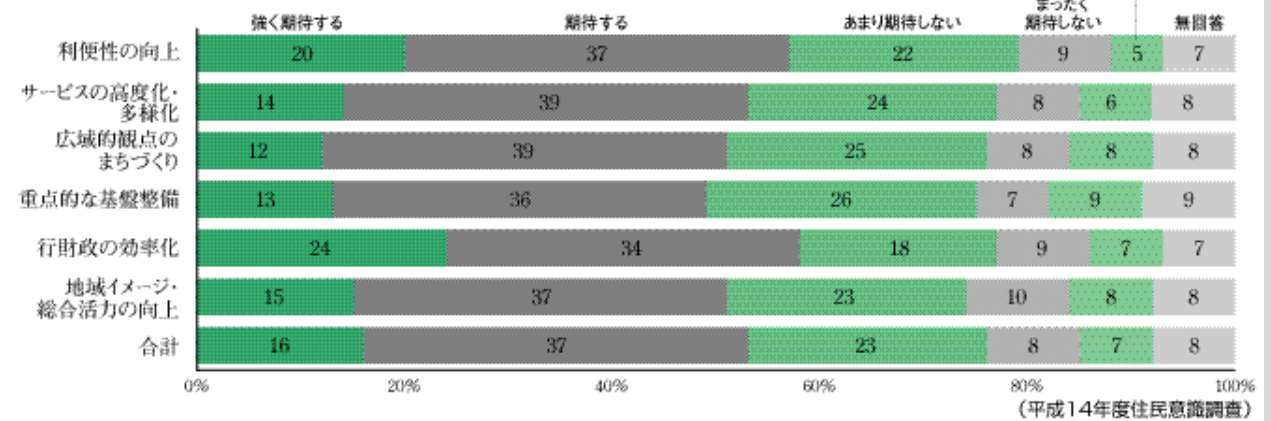


防災訓練(平成15年1月)

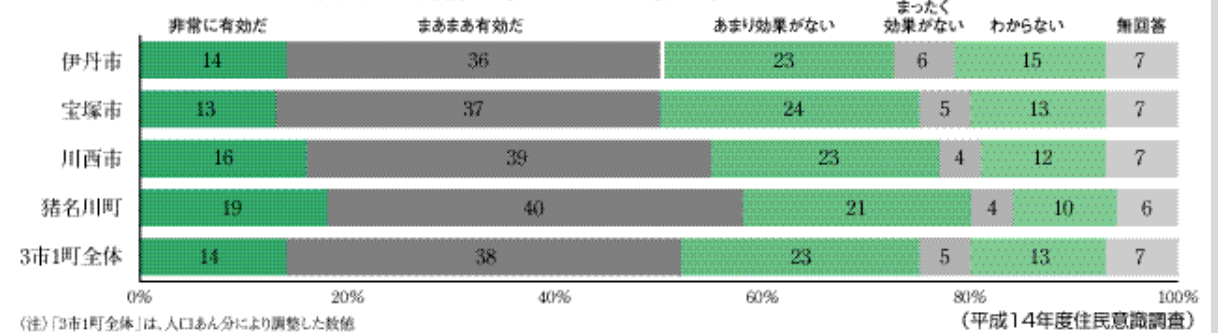
図表7 周辺市町との合併への関心



図表8 3市1町の合併に対する期待



図表9 合併に対する不安の解消策の有効性



今後の広域行政に対する住民の意識

昨年度及び今年度の住民意識調査では、広域的連携など研究会の

取組に対して高い支持が得られました。3市1町の合併についても、「行財政の効率化」、「利便性の向上」をはじめ、全般的に高い期待が寄せられています(図表8)。

一方、合併への関心や、合併に対する不安(住民サービスが低下する、民意が反映しづらくなるなど)の解消策(窓口サービスの増設、公共施設の再配置など)の評

価については、3市1町の間で意識の格差が見られました(図表7、9)。3市1町住民間の一体感についても十分強いとはいえませんでした。

阪神北部広域行政研究会では、今後の広域行政のあり方を検討するための参考にと、平成13年度と14年度の2回にわたり住民意識調査を実施しました。
3市1町在住の16才以上の男女(平成13年度:6,000人、平成14年度
広域的連携に対する意識、あるいは市町合併に関する関心や、
期待と不安などについてお尋ねしました。

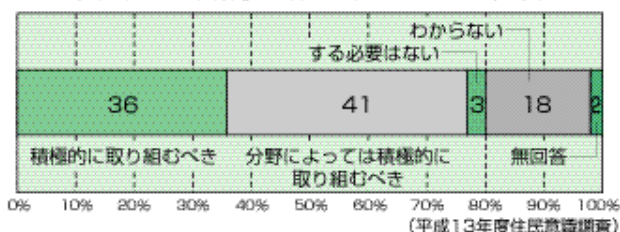
住民意識調査 結果まとまる

広域的連携に対する住民の意識

平成13年度に実施した3市1町住民意識調査では、広域的連携など阪神北部広域行政研究会の取組に対して、77%の人が肯定的に評価

しています(図表3)。特に福祉、病院、環境、交通などの分野は力を入れるべきとの回答が多くを占めました。

図表3 広域行政研究会の取組への賛否



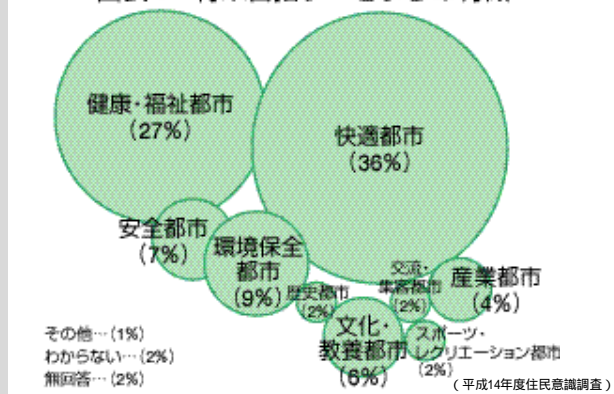
阪神北部圏域の将来像

阪神北部3市1町の総合計画に掲げられた将来像には、「豊かな暮らし」や「自然との共生」などの共通点が見られます。
また今年度を実施した住民意識調査では、この圏域が将来めざすべきまちの特徴として、「快適都市」や「健康・福祉都市」が上位に挙げられました(図表4)。
これらの点を踏まえ、阪神北部圏域の将来像として「快適」や「健康・福祉」を特徴とするまち、というイメージを描きました。

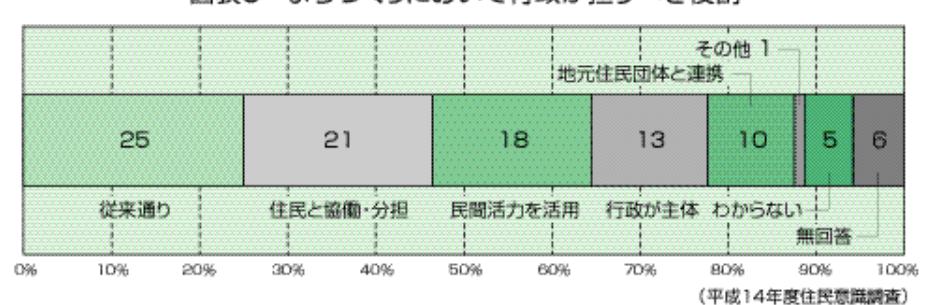
阪神北部圏域の行政課題

阪神北部圏域の現状や今後のトレンドを踏まえ、昨年10月の研究会において、この圏域の今後の行政課題について話し合いました。そこで、課題解決の方向性として以下の点が挙げられました。
・魅力ある地域特性の維持・強化
・広域的視点のまちづくり
・住民ニーズの高度化・多様化への対応
・人口減少や少子高齢化への対策
・産業政策の転換や失業対策
・行財政改革の推進
・人材育成の促進
・住民との協働や民間活力の活用

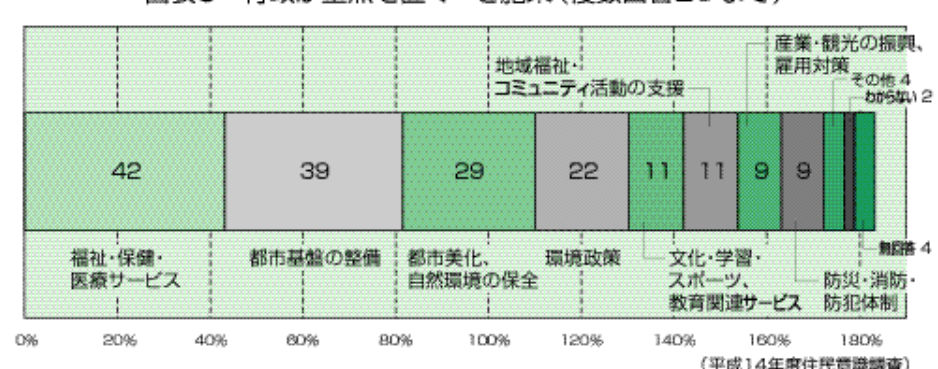
図表4 将来目指すべきまちの特徴



図表5 まちづくりにおいて行政が担うべき役割



図表6 行政が重点を置くべき施策(複数回答2つまで)

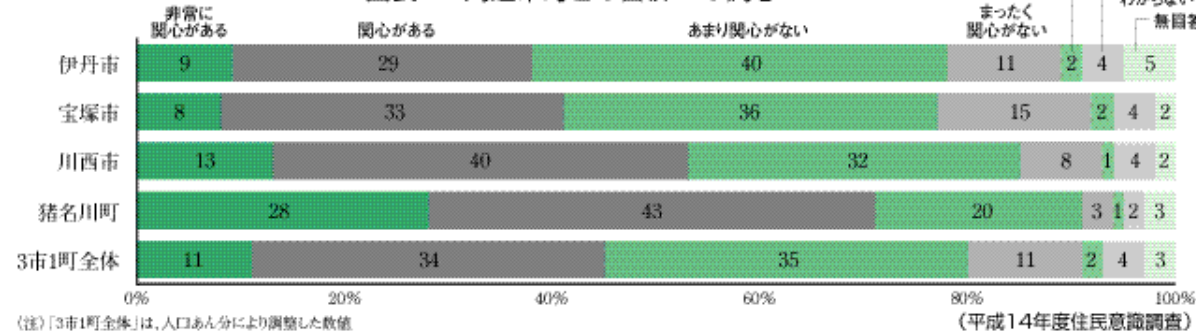


阪神北部圏域のまちづくりの方向性

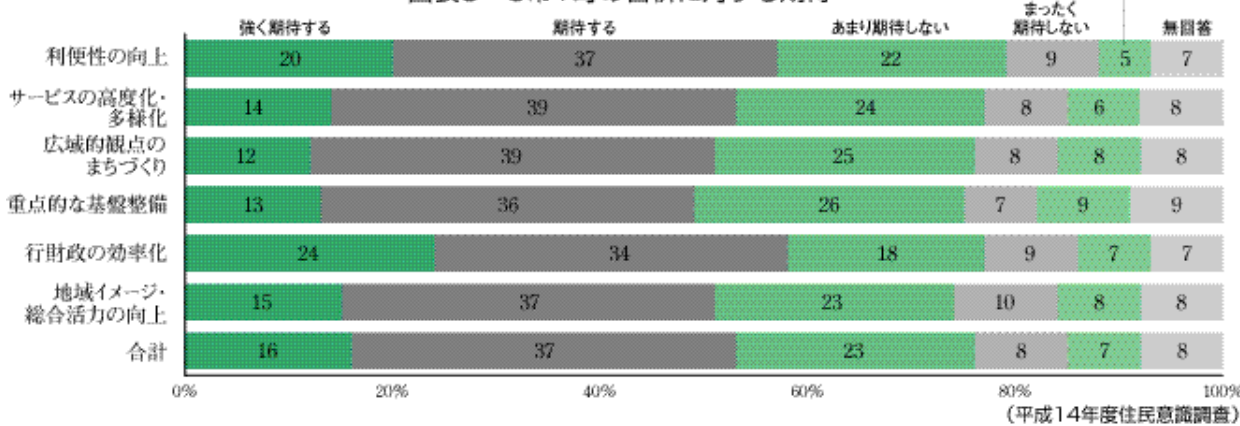
今年度を実施した住民意識調査では、将来像の実現に向けて、行政ばかりでなく、住民との協働や民間活力の活用も進めるべきであるとの声をいただきました(図表5)。
また、行政が重点を置くべき施策として、福祉・保健・医療、都市基盤整備などが上位に挙げられました(図表6)。
そこで、まちづくりの方向性として以下の3点が重要であると考えられます。
広域行政によるサービスの多様化・高度化・効率化
住民との協働・民間活力によるニーズに適合したサービスの提供
重点的な施策の推進(福祉・保健・医療、都市基盤整備など)



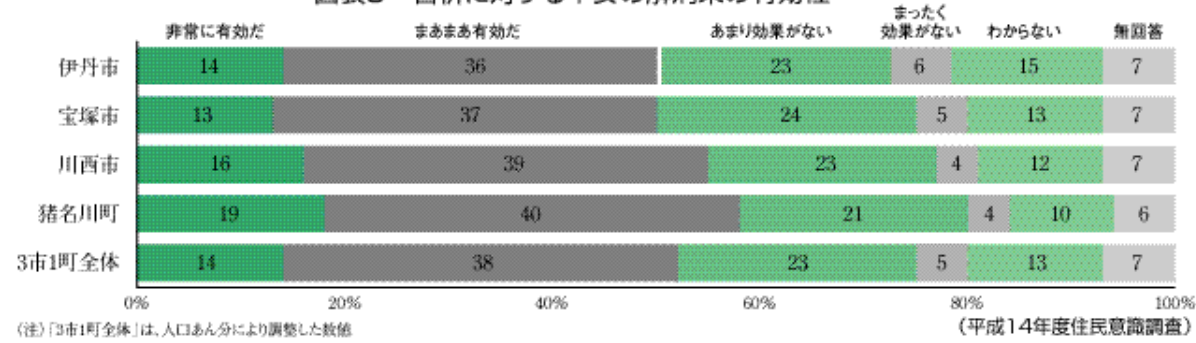
図表7 周辺市町との合併への関心



図表8 3市1町の合併に対する期待



図表9 合併に対する不安の解消策の有効性



今後の広域行政に対する住民の意識

昨年度及び今年度の住民意識調査では、広域的連携など研究会の

取組に対して高い支持が得られました。3市1町の合併についても、「行財政の効率化」「利便性の向上」をはじめ、全般的に高い期待が寄せられています(図表8)。

一方、合併への関心や、合併に対する不安(住民サービスが低下する、民意が反映しづらくなるなど)の解消策(窓口サービスの増設、公共施設の再配置など)の評

価については、3市1町の間で意識の格差が見られました(図表7、9)。3市1町住民間の一体感についても十分強いとはいえませんでした。